

まえがき

出産、進学、就職、結婚、子育て、病気、介護、人間関係……。

私達は生きていく折々のなかで悩んだり、戸惑ったり、苦しんだりすることが少なくありません。いつ、どこで、どのようにふりかかってくるか計りしれない問題や苦難を、どう受け止め、どう乗り越えていけばいいのか。こうした苦難への対処の仕方は、自分自身の成長はもとより、家庭、職場生活にも影響を及ぼし、ひいては人生の幸・不幸を大きく左右します。

「苦難を乗り越えた倫理体験を、ぜひ聞かせてほしい」。こうしたご要望を多く頂戴し、このたび『倫理体験シリーズ』を再刊する運びとなりました。本シリーズは、これまで月刊誌『新世』に掲載された「体験記」と、多くの未発表体験の中から、

珠玉の体験を選んで一冊にまとめたものです。

今回は、その第一弾として「夫婦」を取り上げました。

倫理研究所創設者・丸山敏雄は、夫婦についてこう述べています。

世に「人の守るべき道」があるとすれば、なによりも夫婦の道が先であり、これがすべての道の本でなければならぬ。それは、夫婦の關係が人倫の初まりで、親子・兄弟・交友などは、それより分れつづくものであるからである。人生のあらゆる幸・不幸を左右する原点であり、出発点が夫婦關係です。

夫婦が明朗愛和の生活を送るとき、一家の健康ともろもろの幸福が産み出されるのです。

しかしながら、日々の暮らしの中で夫と妻はあまりにも身近な存在であるために、かえってうまくいかないケースが少なくありません。

たとえば、相手に対する不足不満を持つ。無意識に相手を変えようとする。なかなか素直に向き合えない。言いたいことを我慢してしまう。些細な出来事から大き

な亀裂が入ってしまう。

こうした夫婦関係は、家庭内に暗い影を落とし、家族の健康、子供の性格、事業商売などいろいろなことに悪影響を及ぼします。

「夫婦問題を解決したい」「とくに問題は無いが、さらに夫婦仲を良くしたい」という願いは、多くの方が持っているのではないのでしょうか。

もつれた糸を如何にしてほぐすのか。どうすればもっと仲良くなるのか。そのヒントが、本書の中で、きっと見つかることでしょう。

登場する十三組の夫婦は、伴侶の病気、夫の失業や失踪、離婚の危機、経営難など、さまざまな問題や苦難を生活の赤信号として捉え、真剣な実践に取り組むことで、みごとに解決し、仲睦まじい夫婦へと生まれ変わりました。

取り組まれた実践には、真心から相手の話を聴く、話し合いの場を持つ、意固地を捨てて何事も相談する、「ハイ」と受けきる、信じぬく、思いをあっさりと伝える、相手の美点を見つける、などがあります。どの実践も〈夫婦関係をよりよくしたい。

新婚時代の心境に戻ってやり直したい」と決意さえすれば、今からでもすぐにできることばかりです。

なお、プライバシー保護のため、氏名、および一部の職業、地域などに修正を加えた箇所があることをお断りしておきます。

本書によって、皆様が、夫婦のすばらしさを再確認し、さらに和やかなご家庭を築かれますよう、心よりお祈りしております。

平成二十七年一月

一般社団法人 倫理研究所

倫理体験シリーズ

夫婦

—— 幸せのかたち

……… 目次

まえがき



I 章 新婚時代を胸に

夫の定年を機に、いよいよ輝く美容師の仕事 綾瀬春子

10

「ハイ」の共感から生まれた、第二の人生 矢口良子 26

聴き、語り合う二人の時間。やがて経営再建へ 中村重行 41

II 章 伴侶の病気が転機に

喜びも苦しみも幾歲月、夫の病を支えて 大江里子

58

妻に笑顔が戻った、百日間の実践 中田義男

74

Ⅲ章 夫の仕事を支えて

「生涯、あなたの味方です」と決意して 中条香織 90

信じぬいて叶った、夫の再就職 松本利枝 106

夫の借金を乗り越えて 池田美智子 120

Ⅳ章 離れてつながった夫婦愛

「あなた、お帰りなさい」が夫婦の再スタート 佐伯洋子

亡き夫に伝えたい、心からの「ありがとう」 米長サチ

154

138

V章 子育てからのステップアップ

息子を信じ、夫の美点探しから気づいたこと 吉岡頼子 170

「夫と一緒に娘を見守ろう」。結婚二十六年目の誓い 山下咲子 183

子供の勉強と受験、何事も夫と相談しあって 黒木サクラ 199

装丁・本文デザイン／山口真理子

装画／岡部哲郎